

柔

カンヌ国際映画祭批評家週間正式出品作品

ロカルノ映画祭銀豹賞、批評家連盟賞
芸術・実験映画連合審査員賞、青年審査員賞
パークレイ審査員賞

バーミンガム映画祭最優秀英国映画賞
作家・批評家協会賞

ストックホルム国際映画祭国際批評家賞

ら

リンジー・ダンカン
ヴィゴ・モーテンセン
ジェレミー・クーパー
シーラ・ムーア
ダンカン・フレイザー

か

THE REFLECTING SKIN

い

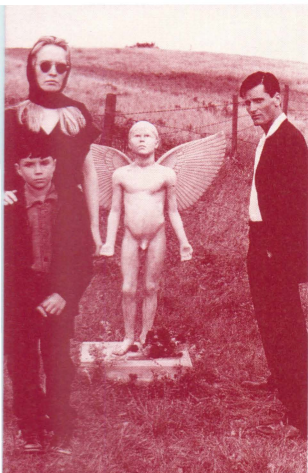
監督・脚本 フィリップ・リドリー
撮影 デイック・ホープ
音楽 ニック・ピカット
製作 ドミニク・アンチャーノ/レイ・バーディス

提供 チャンネル・コミュニケーションズ 配給CFD映画
© NATIONAL FILM TRUSTEE COMPANY LTD 1990. All Rights Reserved.

殻



うしろの正面だあれ。



■ 時々、天使は残酷になる。|||||||

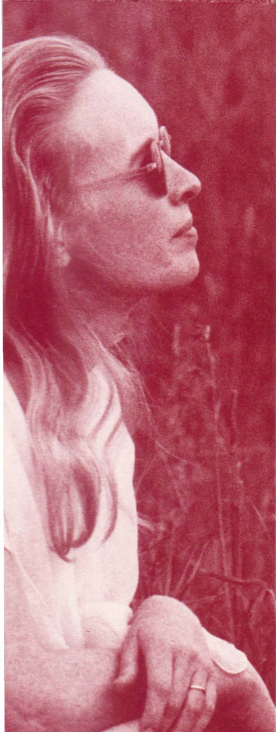
どこまでも金色に輝く小麦畑に囲まれた小さな田舎町。一見、平和に見えるこの町で、突然起きた殺人事件がきっかけで、秘められていた様々な問題が噴出する。イギリスの新鋭フィリップ・リドリーが、ひとりの少年の眼を通して人間の狂気性を描き、カンヌ国際映画祭ほか各国で話題と衝撃を呼んだ問題作。

■ いま、白日の扉が開かれた——。|||||||

7才の少年セスは悪戯好きの普通の男の子。ある日、セスの友だちのイーベンが死体で発見された。警察はかつて少年愛好癖のあったセスの父親ルークを疑うが、彼は身の潔白を訴えてセスの目の前で自殺してしまう。セスはイーベンを殺したのは、町はずれに住むミステリアスな未亡人の仕業で、しかも彼女は吸血鬼だと信じていた。ところが、セスはその未亡人とセスの兄が密会しているのを目撃してしまう。そして、第二の事件——セスのもうひとりの友達のキムが殺された……

■ 鬼才フィリップ・リドリー、鮮烈のデビュー |||||

この作品で衝撃的なデビューを果たしたフィリップ・リドリー。1960年、イギリス生まれの彼は画家、小説家としても活躍しており、見事な色彩感覚と小道具の数々、徹底した構図作りに、「子供時代」「セックス」「死」「強い母親像」といったリドリーが取りつかれている四つのテーマが狂気に彩られてスクリーン上で爆発している。まさに20世紀のラスト・ディケイドに相応しい才能の出現といえよう。



THE REFLECTING SKIN 柔らかい殻

ディビッド・リンチの兄弟、ともいべき嬉しい才能がイギリスから出現した。それがまだ30歳になったばかりのフィリップ・リドリーである。

とにかく、その才能は嫉妬すべきもので、早くからかなりブラックな小説を刊行したり、絵画の個展を数回開くなどの活躍をしていたが、その多才のすべてが注ぎ込まれたのが、はじめての長編映画であるこの「柔らかい殻」というわけである。

画面とテストのコントロール能力は実に驚くべきもので、特にテストは教わるものではないから、今後の展開は保証された、と言っている。

リドリーがこの映画であばくのがアメリカの〈1950年代〉の心理的緊張である。〈少年〉の目を通してこの緊張が、フィルムを震わせている。

(滝本誠・映画評論家)

これは天使と悪魔、ハックルベリー・フィンと『白鯨』のエイハブ船長に引き裂かれた“アメリカの子供”の象徴だ。麦畑の黄色い海を泳ぐ白鯨の腹の内に潜む、吸血鬼狩りの少年の物語である。そしてまた、すぐに三島由紀夫の『午後の曳航』のイノセントな少年を思い出した。イノセントこそは最大の暴力であろう。

(中森明夫・作家)

この映画には多くの要素が盛り込まれています。それらは寓話だったり、少し非現実的なイメージだったり。しかし、それはあくまで要素に過ぎません。この映画を観る時は、それらに惑わされることなく、フィルムに焼き付けられたイメージを素直に受け入れる事が重要だと思います

(伊ワモトケンチ・映画監督)

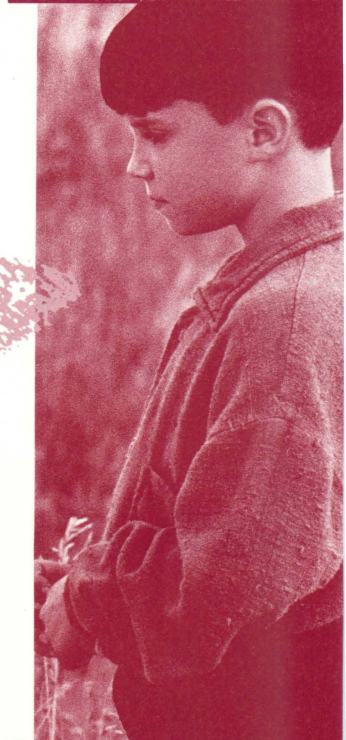
これほど大胆で、そして耽美的な映像をかつて見たことがなかった。ショックだ。この映画そのものが、まるで“フィリップ・リドリー美術館”であると言いたい。

(林家こぶ平・落語家)

このような映画に出会うと、今また新しいシュールレアリスムの時が来た、ということを感じるとともに実感できる。現実の真っ只中にこそ超現実がある、それを見出す力を喚起するような、愛の最前衛がここに在る。

(合田佐和子・画家)

1990年/イギリス映画/カラー/95分/ビスタ・サイズ/ドルビー・ステレオ
チャンネル・コミュニケーションズ株式会社/CFD映画配給/© NATIONAL FILM TRUSTEE COMPANY LTD 1990. All Rights Reserved.



ありがとう、映画たち。シネマスクエアとうきゅう10周年スペシャル Vol.6

3月13日(金)おロードショー!

特別鑑賞券1400円発売中(当日1700円均一の処)

全自由席定員制
入替制

※満員および上映中の入場はできません。

シネマスクエア
とうきゅう

新宿歌舞伎町ミラノ座横3F (3232) 9274

時間 連日 12:30 2:40 4:50 7:00

●毎金・土曜の夜はレイトショー PM9:00より

